

♪ 小学校2学期～音楽会～ おすすめのこの曲Part2

小学校では2学期の音楽会も終わり、学期末に向けてそろそろラストスパート!というところかと思えます。ハーモニー第3号に引き続き、2学期に行われた音楽会を中心に、各校でのおすすめ曲を教えてくださいました。いつも悩む選曲ですが、参考にさせていただきたいと思えます。情報をお寄せくださった先生方、ありがとうございました。

紹介者	演奏学年 (人数)	演奏形態	曲名	おすすめ 解説
両小野小 山口先生	5年 (25人)	器楽合奏	ルパン三世の テーマ (ドレミファ器楽)	<ul style="list-style-type: none"> 定番ですが、やはり5年生くらいの子もたちの心にぴったりくる曲のように思いました。楽しんでどんどん練習する姿が見られました。 主役と脇役を意識するように伝え、メロディーラインを担当している時はどんどん音を出し、それ以外は控えめに演奏するようにし、メリハリがつくようにしました。
辰野西小 塩澤先生	3年 (各クラス 30人くら い)	リコーダー 二重奏 + 箏 + 打楽器	キセキ	ふつうのリコーダー二重奏に箏6面を入れてみました!途中からピアノと小太鼓、大太鼓、すず、ウインドチャイムも入れてノリノリでした♪
			いつも何度でも	こちら箏6面入れました。 (書いた楽譜があるそうですので塩澤先生まで)
	3年 全校	二部合唱 斉唱	Jump! 音楽は友だち	どちらも菊本るり子(ruriko)先生の曲です。
伊那小 櫻井先生	4年 (34人)	二部合唱	Dream&Dream ～夢をつなごう～	<ul style="list-style-type: none"> 振り付けや手拍子を入れて楽しめる曲です。 サビのところで高音は頭声が響きやすい音域、低音は地声でも歌える音域で、頭声に切り替えていく段階や初めて二部合唱に取り組む子ども達にもよい曲でした。最後は三部に分かれますが、無理なく合唱にできオススメです!
東伊那小 中村先生	1年 (21人)	オペレッタ	くじらぐも 音楽物語「くじらぐも」(出版社: トヤマ出版)	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に国語で「くじらぐも」を学習するので、子ども達も物語の内容をよく理解していて、歌い方も工夫することができます。「まねっこするくじらぐも」のかわいさや「くじらぐもに乗りたいな～」という気持ちが表現された曲が物語にぴったりで、1年生が歌うとより素敵な曲になります。 セリフの内容は、人数や子どもの様子で変更して短くしました。曲も3曲ありましたが、1曲をやめて、2年の教科書にある「ぷっかりくじら」を入れて、鍵盤ハーモニカの演奏を入れました。

中沢小 和田先生	3年 (14人)	部分二部合唱 (本当は 三部合唱)	おちゃのじかん 同声合唱ベストアルバム2	10数種類のお茶の名前だけでなく「～ちゃ」が多く出てきて言葉遊びとしても楽しいです。変拍子や臨時記号が出てくるのでとっつきにくい部分もありますが、耳慣れてくればかわいらしい曲です。
長谷小 小林	3年 (9人)	リコーダー 奏	スウィング	ソラシドレで吹ける曲で、伴奏と合わせるととてもかっこよく、子ども達もすぐに気に入ってあっという間に覚えました。体の動きもつけたりして、楽しく盛り上げてくれました。
	6年 (10人)	鍵盤ハーモニカ 奏	シング・シング・シング	担任の先生がドラムを叩ける方だったので選曲したのですが、担任ドラム、1人バスマスター、1人タンブリン、3パートの鍵盤ハーモニカで演奏しました。元はM8の器楽楽譜です。簡単な動きをつけてやりました。鍵盤ハーモニカってカッコイんだぞということを下学年に伝えようという裏の目標のもとやりましたが、音楽会が終わった後、「鍵盤ハモかっこよかった」「私たちもやりたい」という声がたくさん聞かれました。6年生も大満足でした。

♪吹奏楽活動紹介

幸福の竜（ラッキードラゴン）を羽ばたかせることができた今年のお話です。

西箕輪中 吉瀬 幸雄

「吹奏楽部顧問として、活動の様子や頑張っていることを、ハーモニーに投稿していただけないか？」との依頼をいただきました。せっかくいただいた機会ですので、夏のコンクールに向かうまでの本校の吹奏楽部の活動の様子を振り返ることを通して、中学校吹奏楽部の顧問として思うことを感じ取っていただければ幸いに存じます。

今年の1月のことでした。アンサンブルコンテストが終わり、今年のコンクールで演奏する課題曲と自由曲を決めようとしていた時のことです。毎年8曲くらい考えて、子どもたちと一緒に聴いて考えようと準備をしていますが、この時期はインフルエンザが流行する時期でもあるため、なかなか全員で揃って、みんなで聴き合い、意見を出し合って決めようとするのが難しいです。ゆえに「全員が揃ってから…」となると時期が後ろへずれ込んでしまうために、部員一人一人にCDを焼き、期日までに聞いておくように指示をして進めることにしました。今年は、私がぜひこの1年間子どもたちと一緒にやりたいと思っていた曲を1曲入れました。

福島弘和作曲「ラッキードラゴン ～第五福竜丸の記憶～」という曲です。

今から5, 6年前の吹奏楽コンクール長野県大会で、安曇野市立三郷中学校がこの曲を取り上げたのですが、その演奏が私の心の中に強く残り“いつか子どもたちと一緒にやりたいな”と思っていたのが一番の理由です。なぜ、心に強く残ったかという、私が吹奏楽の演奏を聴いて、初めて自分の心の中に場面が絵として浮かんできたので「いつかそんな演奏が子どもたちとできたらな」と思ったからです。この曲は、ベンチャーンという画家が書いた「ここが家だ」という本をもとに作曲されたと総譜の解説に書かれていましたが、そのもとになったのが、1954年3月1日にビキニ環礁付近でマグロ漁に行っていた途中で、不幸にしてアメリカの水爆実験に巻き込まれ、乗組員全員が被爆をしてしまった第五福竜丸まつわるお話です。

たしかに、「子どもたちとやりたいな」と思って入れてはみたものの、この曲は相当難しそうだし中途半端な演奏になりかねないなあ」と不安に思い、「僕はラッキードラゴンっていう曲をやりたいんだけど、

相当難しそうだなって思ってどうしようかなって思っている」と素直に自分の気持ちを子どもたちにぶつけました。ちょうど、この夏のコンクールの自由曲をどうするかという自分の考えを書いてもらっていた時でした。その時2年生（今の3年生）の2名の女子生徒が、こう私のところへ言ってきました。「先生、一晩考えさせていただけませんか？」私は、その日で集約ができればと思っていたのですが、そのように言ってきた気持ちは大事だなと思い、翌日までに自分の考えを伝えるように話をしました。

翌日、その2人が伝えてくれたのは、次のような趣旨のことでした。

- ・とにかく、(ラッキードラゴン)よりも技能的に優しい曲だとしても、自分たちがいいと感じなければダメだと思う。
- ・とにかく難しくても、自分たちがやりがいを感ずることのできる曲がいい。



全部員の約6割の子どもが、この「ラッキードラゴン」をやりたいと希望を出してきたので、覚悟を決めて挑戦することにしました。「明らかに難しい」とわかっている曲を取り上げる以上は、私としてもしっかり手立てを組んで取り組ませたいと考え、譜読みの段階から、同じ動きをパートで組ませ、ゆっくりなテンポで、まずは楽譜に書かれている音やリズムをつかませることから始めました。

そして、その日の練習の中で「この部分はできるようにしよう」という範囲を明確にして取り組ませようと考えました。

また、何とかこの曲の世界観を共有できればと考え、東京に第五福丸が展示されている場所があると聞いたので、自分で展示館に足を運びました。

その時の写真を見せたり、私が見聞きしたことを子どもたちに話したりしました。真剣に耳を傾けてくれていたのが印象に残りました。

正直、第五福丸の話がとても重い話だったので、どう話していいのか迷いましたが、あったこと

事実、船長さんが家族思いで、船員のことを大事に考えてくれていた人だったということ、白い灰が降ってきたときの船員さんの様子、無線を傍受されると、国家機密にかかわることだから命が危ないと考え、船員の具合が悪くなる中、無線も使わずに帰ってきたという事実、などを練習の途中でも話しました。

何回か、保護者の方々にも聴いていただきました。いつもよりも多く聴いていただく機会を設け、中には、「5月の部活動参観の時に来ることができなかったので、聴きにきました」と言ってくださった方もいました。演奏を聴いていただき「正直、このままでコンクールを迎えて大丈夫かな？と思いました。」という感想を寄せてくださった方もいらっしゃったのですが、コンクールの時点で完成形になればと思い、7月の頭まではゆっくりなテンポでリズムをそろえたりすることを主眼に繰り返し練習を重ねていきました。時々教えにきてくださる先生方からも「去年よりも、いい音をしているよ」とお褒めの言葉を何回かいただきました。

コンクールが近くなっても、必ず同じ動きをする生徒同士で集まって練習する時間を作りました。その時の子どもたちの様子を見てみると、下級生ができない部分を上級生が徹底的に教える姿があったり、また、3年生なりに和音が合わない、「この音とこの音が重なっていないよ」とか「この音をしっかり出さないとバランスが取れないよ」といった声が



けがあったりと、とても頼もしく感じる瞬間が多くみられました。

そして迎えたコンクールの地区大会当日、結果は銀賞をいただいたのですが、最後の代表発表の時に西箕輪中の名前が呼ばれ、2年ぶりに県大会のステージに立たせていただけることになりました。昨年以上に暑かった夏休みの練習を経て、8月7日キッセイ文化ホールのステージに立たせていただきました。不思議と、演奏中は指揮台から、子どもたちの演奏する姿や様子を見渡すことができ、最初は緊張があったものの、落ち着いて演奏する様子が見て取れました。結果は銅賞をいただきました。中には、表面上は大騒ぎをしていますが、結果発表が終わって荷物置き場に集まるときに、下を向いて今にも泣きそうな表情の男子生徒や、くやしさを前面に出している男子生徒もいました。

「悔しい」という気持ちを前面に出せるようになったことが成長の証なのかなとうれしくなった反面、もう少し何とかできたのになあと複雑な気持ちになりました。いただいた講評は、主にこんな内容だったと思います。

- ・終始、音程が合わないことが気になった。
- ・やや棒吹きな感じがする。音色が雑に感じる。
- ・素直で明るい音がみなさんのいいところですね。
- ・表現豊かに演奏し、音楽が伝わってきました。技術的に足りない部分はありますが気になりません。



県大会が終わった翌日、子どもたちと演奏を聴いてみました。子どもたちはあまり表情に出さなかったのですが、私は聴いていて、なんだかジーンときてしまいましたし、不思議とその時は、自然とうちの子どもたちの演奏している時の姿が浮かんできたのです。

「もっとこの子たちとコンクールで、この曲をやりたいかったな」という思いはありますが、でも、終わってみれば「難しくて大丈夫かな」という心配は取り越し苦労だったんだなと思いました。

この子どもたちと一緒に、キッセイ文化ホールで演奏できたのがうれしかったです。また、10月に開いた

ラストコンサートでも演奏をしたのですが、この曲を始めたころと比べて、気が付いたら自然と高い音が出せるようになってきたり、音色がより豊かになっていたり、音が前へ飛ぶようになっていたり、子どもたちの成長の姿を多くみられたのもうれしかったことでした。

「ラッキードラゴン」とは、先に紹介した「ここが家だ」の中の絵で使われている言葉から取ったようですが、第五福竜丸の「福竜」にかけて、この第五福竜丸から竜が飛び出し、全世界の平和と、二度とこのような悲劇が起こらないようにとの願いで竜が飛び出し、天へ昇っていくというイメージで作曲者が作ったと書いてありました。

審査員の先生方からすれば、まだまだ足りない部分は多々あると感じられたのかもしれませんが、私とすれば、ボロボロな感じでも、この子たちなりに、松本の空へ、幸福の竜を羽ばたかせられたのかなと思っています。

そのことを、1、2年生たちが感じてくれているようなので、それを生かしていけるように子どもたちと頑張っていきたいと思います。

(写真提供フォトライフ)

